

源義賢墓(比企郡嵐山町)

みなもとのよしかたはか

源義賢墓は左手にある/その手前には鳥居がある





この鳥居の奥に源義賢墓がある





左手の覆屋に源義賢墓(五輪塔)が保存されている



源義賢の墓

義賢は、源為義の次子（長子は義朝）で、近衛天皇が東宮の時に仕え、帯刀の長となつたので、帯刀先生と称され、その後東回到下り、上野国多胡館（群馬県多野郡吉井町）を本拠地としたので、多胡先生とも称された。更にその後、この地（大蔵館）に移住し、武蔵国や上野国に勢力を振るつたが、久寿二年（一一五五年）八月十六日、大蔵館で義賢の長子である甥の悪源太（源義正と合戦して討たれた）
なお、木曾義仲は、義賢の次子である。源義賢の墓とつたえられるこの五輪塔は、数度の火災にあったためか、やや赤く変色しているが、県内では、最古の部類に属するものである。
大正十三年三月三十一日に県指定史跡と指定されている。

埼玉県

昭和五十五年三月



埼玉県指定史跡
源 義 賢 墓

国史 大正十三年三月三十一日
所在 嵐山町大字大蔵字大蔵六
時代 平安 末 期

この五輪塔は、火輪部と水輪部のみ残存しており、空輪部と土輪部は
度から補われたもので、風輪部は欠損しています。材質は、凝灰岩製で、
火成にあつたためか変色のあとがみられ、損傷も著しく、かつ左側の輪部が
五十二年に東京国立文化財研究所により修復処理されました。
このお墓は、いわゆる古式五輪塔と呼ばれ、奥内所に所在する五輪塔
の中では最古の例です。
なお、この墓は、義賢ゆかりの人々が供養のために建てたものと思
えられます。

源氏系図



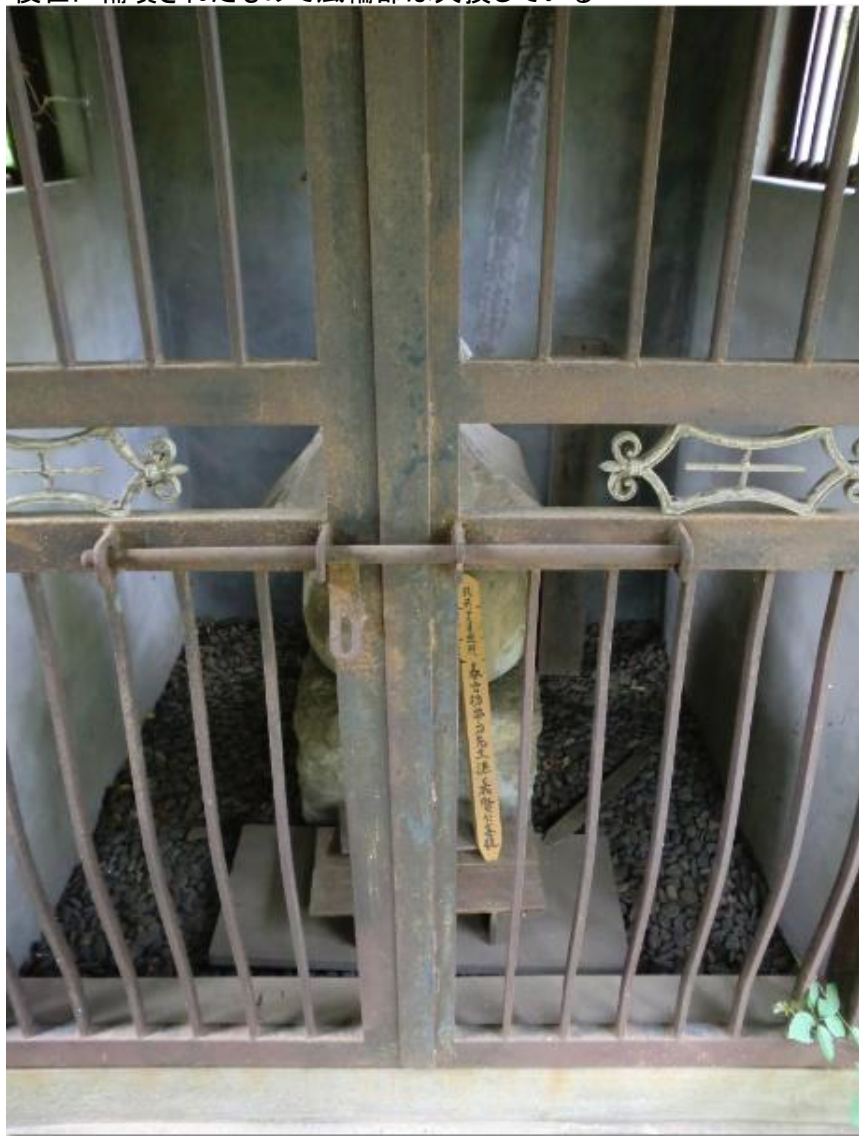
五輪塔は本来は塔の中心に
建てられしもの、後には墓
石として建てられるものに
なりました。
寄附の御願より、上から
空・風・火・水・土とす。
土大の墓石のみあらわして
ます。

平成四年九月

嵐山町教育委員会



この五輪塔は古式五輪塔と呼ばれ、埼玉県内では最古のもので、埼玉県指定史跡となっている/中間部の火輪部と水輪部もみが古い部分で他は後世に補填されたもので風輪部は欠損している



火輪部→



水輪部→











こんなものもあった



さて、基に戻ると前方の道路の反対側に板碑群があった



幾つもの板碑が並んでいる



ここは大行院の源氏三代供養塔が祀られている場所であった





ここは源義賢の供養塔



源氏一族一門の供養塔が立ち並ぶ







源義高の供養塔



参考ホームページ

<http://www.asahi-net.or.jp/~ab9t-vmh/kakuchi/ranzan01/ookura.html>

<http://23.pro.tok2.com/~freehand2/rekishi/ookura.html>

<http://orange.zero.jp/ken-you mark2.sky/syashin-genpei7.htm>

<http://www10.ocn.ne.jp/~kosuke/ranzann/ranzann2.htm>

<http://ckk12850.exblog.jp/8390536/>

<http://www.lares.dti.ne.jp/~taka-ino/ranzan.html>

